

## V. 施設・設備

### 1. 施設・設備の現状と整備

#### 1.1. 教育・研究活動を支援する施設・設備の整備状況

(現状)

既存施設の調査を行った結果、且野原キャンパスは築30年以上の建物が多く(資料1.1.-1)、外壁は改修が行われているが内部は改修が行われておらず老朽化が進んでいる。挟間キャンパスは且野原キャンパスに比べ老朽化の程度は低い。王子キャンパスは、小学校、中学校は内外部改修・耐震改修を終えており、養護学校、幼稚園については老朽化が進んでいる。

教育研究設備の整備については、十分と言えず、老朽化・陳腐化し、必須とされる設備も不足している状況にあることから(資料1.2.-2)、計画的かつ重点的整備に取り組んでいる。

(評価)

大学全体で計画的な施設等の整備を図る必要があることから、施設マネジメント計画、耐震改修計画、施設・設備等維持管理計画、有効活用スペースの推進計画等が策定されている。

また、設備の整備については、教育研究の効率的な利用、計画的な導入・更新を図ることを予定している。

資料1.1.-1 経年別建物保有状況

単位㎡

築年数	且野原キャンパス	挟間キャンパス	王子キャンパス
30年以上	56,475	0	11,234
20年～29年	22,602	80,598	2,924
10年～19年	3,361	8,653	940
10年未満	9,518	3,387	2,228
計	91,956	92,638	19,480

資料1.1.-2 保有設備の経過年数(購入金額1,000万円以上)

経過年数	1～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21～25年	26年以上
理工系	22	26	18	1	3	0
医薬系	5	11	15	9	2	2
生物系	0	2	0	0	0	0
人文系	1	3	2	2	0	0
計	28	42	35	12	5	2
医療設備(附属病院)	22	34	22	7	2	0
合計	50	76	57	19	7	2

#### 1.2. 身体障害者等の活動を支援する施設・設備の整備状況

(現状)

建物入口へのスロープ・自動ドア、車椅子便所、車椅子駐車場、エレベーターについて且野原キャンパス、挟間キャンパス、王子キャンパスとも概ね設置されている(資料1.2.-1)。

挟間キャンパスについては、平成17年度に病院玄関西側に車椅子駐車場等の増設整備を行った。

(評価)

スロープ、自動ドア、エレベーターは、各キャンパスとも整備されている。車椅子便所は、且野原キャンパスにおいては概ね整備されている、挾間キャンパスは、病院については整備されているが学部校舎は不足しているため、ユニバーサルデザイン推進計画に基づき、平成19年度以降、順次整備する予定である。車椅子駐車場は、附属病院を除いて不足しているため平成18年度以降、順次整備する予定である。

資料 1.2.-1 身体障害者等の活動を支援する施設・設備

	スロープ	自動ドア	車椅子便所	車椅子駐車場	エレベーター
且野原キャンパス	41	39	18	7	23
挾間キャンパス	11	5	12	13	11
王子キャンパス	14	13	4	0	3

### 1.3. 外国人研究者の受け入れ、留学生等の活動を支援する施設・設備状況

(現状)

錦町団地に国際交流会館、且野原キャンパスに留学生寄宿舍、挾間キャンパスに外国人研究員等宿泊施設がある(資料 1.3.-1)。

現在、国際交流会館、留学生寄宿舍とも入居率が100%であり、今後は更にそのニーズが高くなることが予想される。

(評価)

国際交流会館、留学生寄宿舍、外国人研修施設すべてにおいて有効に活用されている。

資料 1.3.-1 外国人研究者の受け入れ施設

(単位：室)

	国際交流会館			留学生寄宿舍	外国人研究員等宿泊施設
	単身室	夫婦室	家族室	単身室	単身室
留学生	30	3	3	44	
外国人研究者	2	1	1		6
計	32	4	4	44	6

### 1.4. 情報ネットワークに関する施設・設備の整備状況

(現状)

本学における情報ネットワークに関する施設・設備の整備状況は以下のとおりである。

- ・本学の情報ネットワークの主要な機器は、2001年に導入されたものであり、基幹ネットワークは1Gbps、建屋間のネットワークは原則として1Gbps、建屋内のフロア間は100Mbpsの帯域幅である(資料 1.4.-1)。
- ・キャンパス間のネットワークは、且野原-挾間キャンパス間は8Gbps、且野原-王子キャンパス間は10Mbpsである。
- ・IPアドレス発行件数は、10,731件である(資料 1.4.-2)。
- ・国立情報学研究所が総合情報処理センター内にSINETの機器を設置し、本学はノード校として、SINETの運用に協力しており、本学を含め、現在8機関が本学を通じてSINETに接続している(資

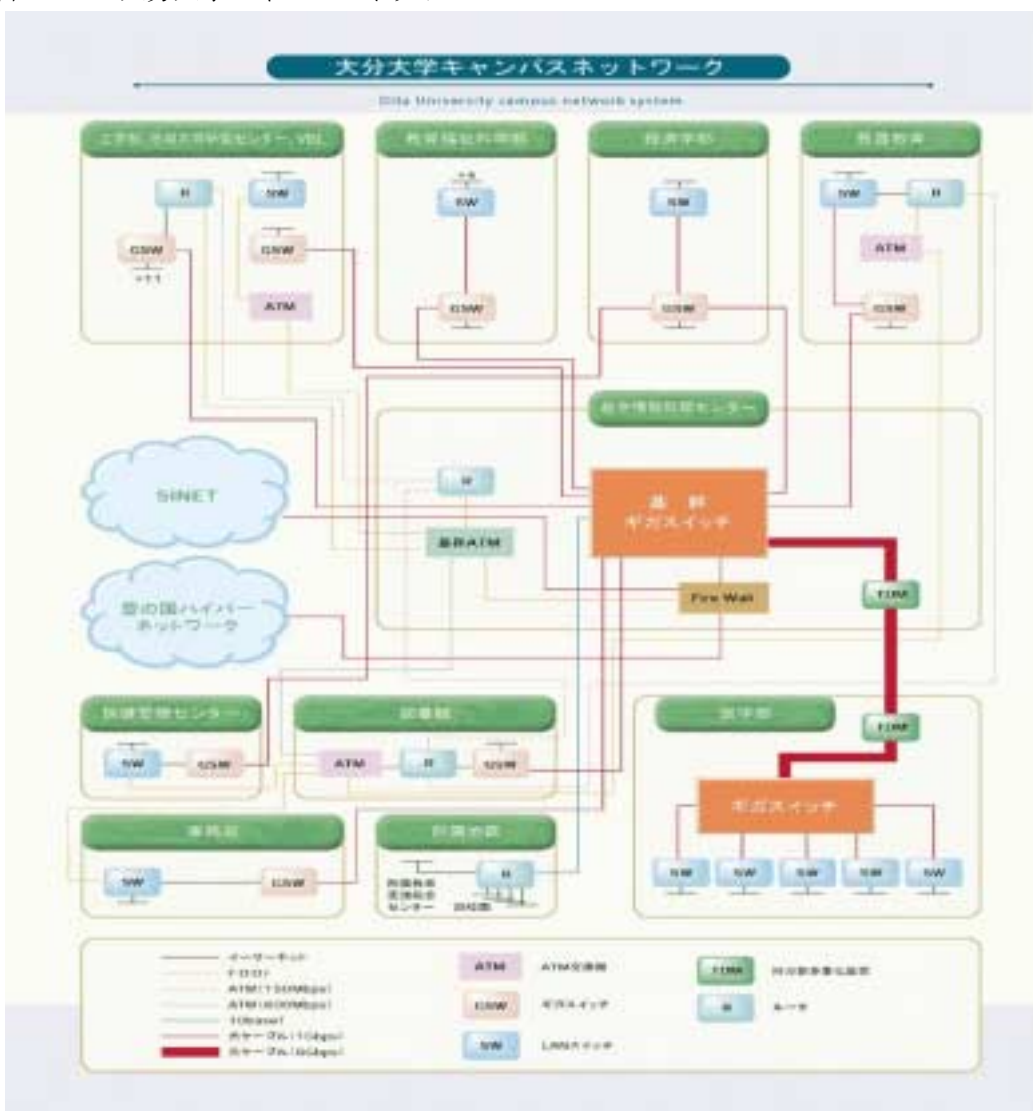
料 1.4.-3)。

- ・地域ネットワークである豊の国ネットワークと、且野原、挾間両キャンパスでそれぞれ接続している。
- ・セキュリティ対策として、以下の2つを行なっている。
  - (1)ファイアウォール(ハードウェアとソフトウェア)を設置し、外部からのネットワークアクセスや、学内のネットワークアクセスの通信をコントロールするとともに、IDS(Intrusion Detection System)を構築し、インターネットからの攻撃を監視している。
  - (2)送受されるすべてのメールについてウィルス添付の有無、spamメールの判定を行い、学内にウィルスが侵入することを防いでいる。

(評価)

情報ネットワークに関する施設・設備の整備状況については、現状は概ね適切であるが、主要設備は導入後5年を経えており、今後、老朽化や帯域不足による障害の発生が予測されるため、計画的な更新が必要であり、且野原キャンパス-王子キャンパス間の回線に関しては遠隔会議等に対応するため、平成18年度に帯域幅を10Mから100Mに増強する予定である。

資料 1.4.-1 大分大学キャンパスネットワーク



#### 資料 1.4.-2 IP アドレス発行件数

総合情報処理センター(平成 18 年 7 月 7 日現在)	6,056
挾間キャンパス (平成 18 年 8 月 24 日現在)	4,675
合 計	10,731

#### 資料 1.4.-3 SINET 大分大学ノード接続機関一覧

No	機関名
1	大分大学
2	別府大学
3	立命館アジア太平洋大学
4	大分県立看護科学大学
5	大分県立芸術文化短期大学
6	別府溝辺学園短期大学
7	大分工業高等専門学校
8	大分県産業科学技術センター

## 2. 施設・設備の管理・運営

### 2.1. 施設・設備の管理・運営体制

(現状)

学長のリーダーシップの下に全学的な施設マネジメントを実施するために施設の整備管理に関する計画を策定し(Plan)、建物及び屋外環境の新築・改修、修繕、点検、点検保守等を行い(Do)、これらの評価を実施し(Check)、評価を次期計画に反映させ(Action)持続的改善を図る体制を整えた。

(評価)

全学的な施設マネジメント(クオリティマネジメント・スペースマネジメント・コストマネジメント)を適切に実施できる体制が整備され、実施されている。

### 2.2. 施設・設備の安全利用体制

(現状)

安全衛生管理委員会が設置され定期的な施設・設備等の利用状況点検を行い、改善指導が行われている。

施設環境整備部門会議の下に施設パトロールを行っている。

(評価)

安全衛生管理委員会等からの改善要望に基づいた施設・設備の改善が行われており、適切な安全利用体制が整備され実施されている。

### 2.3. 施設・設備の安全管理体制

(現状)

全学的な防災管理規程を制定した。全学的な防災管理規程を基としてより具体的な行動指針としての防災マニュアルを作成中である。

(評価)

防災マニュアルについては、平成18年度に策定を予定している。

## 2.4. 施設・設備のセキュリティ

(現状)

全キャンパス共、主要建物の入口には電気錠システムが設置されており、且野原キャンパスは夕方警備員による見回りをを行い、挾間キャンパスと王子キャンパスは機械警備を行っている。

(評価)

概ね適切な警備体制となっている。

## 2.5. 学内の安全対策

(現状)

且野原キャンパスは8時から23時の間守衛所と工学部で入構車両等を確認、それ以降は守衛所に常駐して警備をしている。挾間キャンパスは7時から22時まで機械及び駐車場整理員で入構車両を確認し、警備については警備保障会社に委託している。王子キャンパスは7時から9時まで3箇所の門に警備員をつけて開放し他の時間は中学校正門1箇所を開放し、21時まで入構者を管理している。警備については警備保障会社に委託している。

施設整備委員会の下に施設企画課・管理課が主要3キャンパスの屋外施設等について施設パトロールを行い、危険箇所を調査した。

危険物管理については、「国立大学法人大分大学毒物及び劇物管理規程」に基づき、定期的に各部署局長が毒物等の保管状況の検査を行っている。

(評価)

概ね適切な警備体制や毒物等の保管状況の検査が行われているが、引き続き学内の施設パトロールを実施し、学内の安全対策に努めていくことが必要である。

## 3. 学内環境整備

### 3.1. 学内環境整備

(現状)

平成17年度に屋外環境整備計画を作成し、屋外施設パトロールを行った結果、道路のライン、フェンス・ガードレール、屋外消火栓表示・ホース格納箱の不備の箇所があった。

(評価)

不備の箇所については平成18年度に改修・整備する予定である。

### 3.2. 環境保全への取組

(現状)

本学では、これまでエネルギー消費抑制に向けた取組みとして、光熱水費の経費削減の観点から附属病院を除く各部署ごとの光熱水費の使用目標値(平成16年度実績の約3%減)を設定するとともに、使用実績額を学内ホームページ等で公表し、経費節減に向けた意識の涵養を図るなど経費削減の

面から積極的に取り組んでいる(資料 3. 2. -1~3 参照)。

また、アスベスト調査、微量 PCB 調査、省エネルギー診断等を行った結果、本学ではアスベストは検出されなかったが微量 PCB が含まれている油遮断器があった、なお PCB が含まれている蛍光灯安定器は以前よりステンレス容器に入れ厳重に保管している。

(評価)

環境保全への取組みにおいては、光熱水費の使用目標値の設定や、節水コマの設置など、積極的な取組みが行われており効果をあげている。

微量 PCB が含まれている油遮断器及び蛍光灯安定器は計画的に処理を行うことを予定している。

資料 3. 2. -1 総エネルギー投入量

	電気	ガス	重油他	エネルギー投入量(GJ)
平成 17 年度	86,927	30,815	78,228	195,970 (98.3)
平成 16 年度	88,458	33,122	77,858	199,438

注：()内は削減率で、平成 16 年度を 100 とした場合

平成	水資源投入量・総排水量(単位：千トン)*		総物質投入量 (コピー用紙の使用量の節約)
	水資源投入量	総排水量	
17 年度	297.7 (66.2)	275.9 (66.5)	78,070 (92.9)
16 年度	449.4	414.7	84,010

\*；上水道量から、冷却塔の冷却水補給水と散水栓使用量を差し引いたもの。()内は削減率で、平成 16 年度を 100 とした場合。

資料 3. 2. -2 廃棄物排出量

(単位：トン)

	一般廃棄物	産業廃棄物	特別管理産業廃棄物	合計
平成 17 年度	324.8 (81.3)	115.8(62.6)	241.6(107.9)	682.2(84.4)
平成 16 年度	399.3	185.1	224.0	808.4

注\*；()内は削減率で、平成 16 年度を 100 とした場合。

資料 3. 2. -3 温室効果ガス、硫黄酸化物(SOx)・窒素酸化物(NOx)排出量

年度(平成)	温室効果ガス排出量(CO <sub>2</sub> ) ton	硫黄酸化物(SOx) Nm <sup>3</sup>	窒素酸化物(NOx) Nm <sup>3</sup>
17	20,543 (98.4)	9,105.4(99.6)	176.0 (104.0)
16	20,872	9,140.2	169.3

注\*；()内は削減率で、平成 16 年度を 100 とした場合。